令和7年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

- 1 昨年度の授業改善推進プランの検証
- (1) 成果
- ①「知識・技術」面では、各レッスンに出てくる単語や重要文型の意味を理解するために、デジタル教科書を活用して読んだり、声に出して繰り返したりして教科書の問題に適切に答えることでできている。
- ② アルファベットの聞く・読む・書く活動については、チャンツや歌で口に出したり、大文字と小文字をビンゴゲームや文字並べなどをしたりして、聞き取ったアルファベットを正確に書くなどの活動を通してアルファベットの大文字と小文字を覚えた。
- ③「思考・判断・表現」面では、スモールトーク・フレーズトーク・パノラマトークなどの リスニングを通して、聞き取ったことを言ったり、やりとりを通して聞き取りの理解を深 めたりした。また、教科書の問題を解くことで、聞き取ったことを確認した。更に、アク ティブラーニングの活動実践のため、ペア・グループ・全体でのやりとり(対話)を多く 取り入れて、英語の表現に慣れ親しませることができた。 各学期末のプレゼンテーションでは、スライドを作りながら英語で発表することができた。
- ④「主体的に取り組む態度」面では、イングリッシュ・リーダーを輪番制にして、授業の始め と終わりのあいさつをしたりやその日の時間割の紹介をしたりすることで、全員が自主的 に授業に取り組むことができた。また、各レッスン内容にあったゲームを考えて実施した り、学期末の英語での発表したりすることで、児童の英語に関する意欲や関心を高めるこ とができた。

(2) 課題

- ①「知識・技術」面では、アルファベットの大文字と小文字を確実に書いたり読んだりする問題の正答率が平均値よりやや低かったため、フォニックス・チャンツ・ゲーム・アルファベットビンゴの他にもアルファベットを書く時間を取り入れる必要がある。
- ②「思考・判断・表現」面では、英語を使った発表の場面で、自信をもって意欲的に発表できる児童が少ない。そのため、ペアやグループでのやりとりの場面や発表の機会を増やし、リアクションの言葉も取り入れることを実践したりして、英語の表現に慣れさせる必要がある。
- ③「主体的に学習に取り組む態度」面では、主態的に英語の学習に取り組めない児童が見られるため、基本的な学習を中心にしながら、ゲーム・歌・物語の読み聞かせや視聴などを取り入れてアクティブな活動を取り入れる工夫していく必要がある。
- 2 大田区学習効果測定の結果分析 第6学年
 - ・平均正答率と中央値が、目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・チャンツ, 歌, アクティビテ	・体を動かしながら楽しい雰	・進んで学習に取り組めるよ
ィー, 読み聞かせなどの体を	囲気の中で、友達と英語で表	うに、一人一人の理解度も観
使った活動を通して、楽しく	現する機会を増やすことで、	察しながら、学習形態にも変
理解できるようにする。ま	英語の表現に慣れ親しませ	化をもたせるようにする。
た、児童一人一人への声掛け	るようにする。	
を行うように心掛ける。		

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペアやグループでの英語の	フォニックスを用いて、音	・自主的に取り組めるよう
やり取りなどの活動を通し	と文字の関係に気付き、英語	に、毎月の歌を設定したり、
て、話す・聞く力を互いに高	を読んだり、表現活動に生か	チャンツや学習形態に変化
める。	したりする力を育む。	をもたせたりして、外国語の
		楽しさを味わわせる。

(3) 高学年

知識•技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ・デジタル教科書を中心とし ・既習表現を使ったゲーム等 ・既習の重要構文を中心に復 ながらフォニックスやチャ 習をしながら、英語の文章を のアクティビティーを学習 ンツやアルファベットの読 書いたり読んだりさせる。 に取り入れながら、自主的に み書きなどの練習をする。 ・既習表現を使いながら、簡 楽しく取り組めるように工 ・スモールトークやフレーズ 単な英語のスピーチを授業 夫する。 トークやパノラマトークな の中や学期末に行う。 ・英語の絵本の読み聞かせや どのリスニングを繰り返す ・毎時間の授業中での単語や 子どもたちが興味や関心を ことで、リスニング力を付け スピーチの発音などをALTと もつような英語版の映画な 練習したり確認したりしな どを取り入れて、英語への関 ・必要に応じて、池雪いきい がら、英語に苦手意識がある 心をもたせるようにする。 ・英語に苦手意識をもつ児童 き応援隊の中の英語ボラン 児童も英語の音声や表現に ティアの方々に授業のボラ 慣れ親しみ、話すことに自信 も進んで授業に参加できる ように、授業を工夫すること ンティアの依頼をする。 をもてるようにする。 ・既習の表現や単語などの復 ペア・グループ・全体等の で、英語に楽しさをもって取 習をし、書きなどの練習や教 様々な形態において、会話の り組めるようにする。 科書の問題に取り組む。 やり取りをすることで英語 を話すことに慣れさせる。